

令和3年度 事業報告

社会福祉法人ともいき会



◇法人理念「ともにいきる」

法人理念を実現していけるよう、地域の中で「はたらく」ことを通して、その人なりの生活を営み、ともにいきる社会を目指していくために、幼児期から成人期まで、ライフステージを通して切れ目のない支援を提供していきます。

◇基本姿勢

・人を大切にします

ひとりの「人」として向き合うこと。

相手の良さを知り、自分の良さを知ること。

相手から学び続けること。

・誠実に向き合います。

人に対して誠実に向き合うこと。話を聴き一緒に考えること。

仕事に対して誠実に向き合うこと。報告連絡相談を徹底し、常に考え、実行、見直していくこと。

行動言動が常に法人の職員として見られていることを意識すること。

法令等を遵守すること。

・「はたらく」姿を支えます。

先が見通せることで保護者に安心感を与えること。

できることに着目し、体験を通して、社会性を身に付けること。

はたらくことができることを実証し続けること。

1. 法人本部所在地

〒388-8007

TEL 026-299-3787

長野県長野市篠ノ井布施高田1034-3

FAX 026-299-3839

2. 役員組織

理事:6名

監事:2名

評議員:7名

3. 総 括

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に翻弄された1年となりました。7月には、1名の利用者家族からの感染による陽性が判明し、10日程度の一部事業休止。2月には、複数名の利用者及び職員の陽性判明により、10日程度の一部事業休止を行いました。いずれも長野市保健所を始めとして、各関係機関と連携を密に行いながら、誠実な対応を心掛けました。感染対策については、昨年度から徹底した対策を実施し、また7月の陽性判明後も法人全体で、感染対策を見直し、更なる徹底を図ってきています。次年度以降も感染対策を徹底し、事業を継続していくことを第一に、安心安全なサービス提供を行っていきます。

事業休止中の職員については、随時各管理者と連絡を取り合い、給与面については、雇用調整助成金、小学校休業当対応支援金等を活用しながら、全額休業補償を行い、安心して働き続けられるよう取り組みを行いました。また新型コロナウイルスに罹患した職員についても、傷病手当金、労災申請の手続き中となっています。

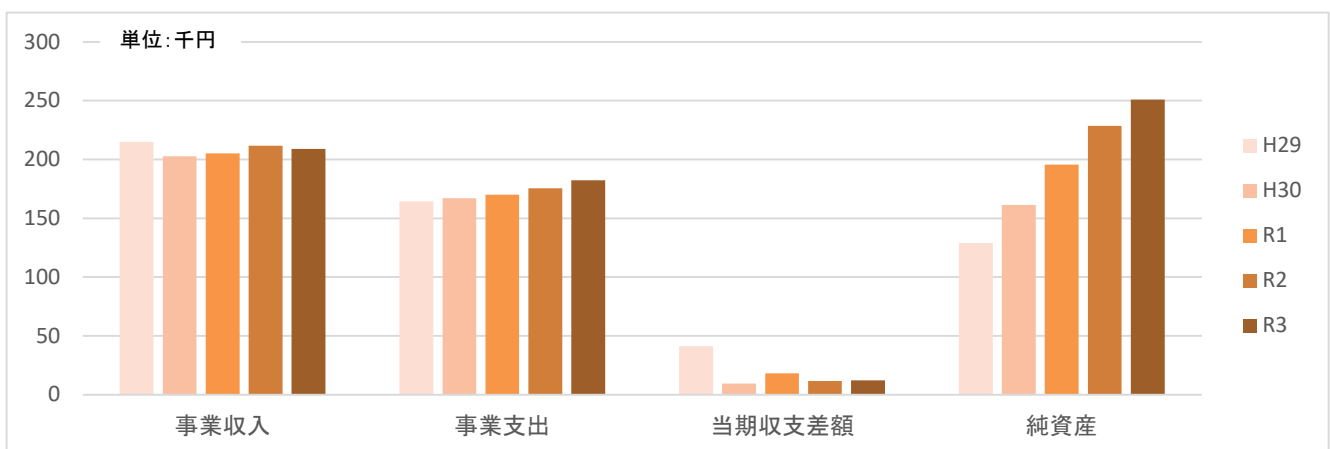
年度末での職員数は44人（うち育児休暇中1人、退職予定者数2人）で昨年度と同数となっています。年度途中での退職者は5人おり、人材の定着に向けては課題も残ります。「人を大切に」という基本姿勢のもと、利用者はもちろんのこと、職員に対しても誠実に向き合うことが重要となっています。

令和2年度の社会福祉充実残額発生に伴う、社会福祉充実計画については、令和3年度に土地取得の計画を立てていましたが、令和3年度中の取得はできませんでした。引き続き土地取得に向けては、交渉を行っていきます。

社会福祉法人ともいき会 過去5年間決算推移

(単位:千円)

	H29	H30	R1	R2	R3	(前年比)
事業収入	215,016	202,733	205,186	211,619	208,991	99%
事業支出	164,437	167,024	170,101	175,419	182,396	104%
(うち人件費)	126,307	128,596	132,079	137,159	145,463	106%
人件費率	58%	63%	64%	64%	69%	107%
福祉事業活動資金収支差額	50,579	35,709	35,085	36,200	26,595	73%
就労支援事業活動収支差額	-776	-699	-54	-64	-4	
施設整備・財務活動収支差額	-9,308	-26,351	-16,944	-24,687	-14,501	
当期収支差額	41,271	9,358	18,141	11,513	12,094	
純資産	128,844	161,294	195,618	228,509	250,884	



事業収入については、前年度－1%減収となりました。新型コロナウイルス陽性者判明に基づく、事業の一部休止、また昨年度の緊急的な新型コロナウイルス対策補助事業が縮小されたことが主な要因として挙げられます。

事業支出については、ほぼ予算通りに執行しました。人件費については、全体的なベースアップ、非正規職員の正規登用といった要因で増加していますが、これらについては当初予算通りとなっています。令和4年度についても処遇改善の一環として「臨時特例交付金」を配分する予定となっており、人件費率については高い水準になる予定です。事業費事務費に関しては大きな増減はありませんでした。

いずれにしても、収入面、特に給付費の仕組みに着目し、管理者が一丸となって事業を行っていきます。

R2年度に発生した、社会福祉充実残額に基づく、社会福祉充実計画については、土地取得の遅れにより、計画の実行年度を変更する予定となっています。

会議名	回数	主な協議内容
理事会	3	・6月 3日 監事監査 ・6月 4日 令和2年度事業報告、計算書類、財産目録の承認 ・6月28日 理事長選任 ・3月11日 令和4年度事業計画、予算
評議員選任 解任委員会	1	・6月14日 評議員選任
評議員会	1	・6月28日 理事監事選任、令和2年度事業報告及び決算報告
運営会議	月1回	・各事業所運営経営状況確認、課題、対策に向けた取り組み検討
各部会議	月1回	・人材育成部会 ・安全衛生部会 ・権利擁護部会 ・リスクマネジメント部会

5. 諸会議への参加

- ・長野県自立支援協議会 就労支援部会
- ・長野市ふくしネット(しごと部会、かつどう部会、子ども部会、相談支援連絡会)
- ・千曲坂城福祉ネット(子ども部会)
- ・須高自立支援協議会(しごと部会)

6. 苦情受付

件数	2件
----	----

主な内容、分析

【苦情の分類】

職員の対応:1件 品質不良:1件

いずれも法人内で誠実に対応することで解決としています。

苦情については、そこで反省すべきこと、また、そこからいかに学び、次につなげていけるかという姿勢を持ち、誠実に対応しました。

7. 虐待事案

件数	0件
----	----

虐待事案はありませんでした。

虐待防止に向けた取組としては、権利擁護部会を中心に、虐待に関する基本的事項、法人理念、基本姿勢の浸透に向けて職員研修等を実施しました。

令和4年度から、研修実施に加えて、虐待防止委員会、虐待防止責任者の設置の義務化により、運営会議を虐待防止委員会としての機能を持たせ、権利擁護部会と連携し、毎月の開催時に、虐待防止についても検討するようにしました。

令和3年度 業務報告		社会福祉法人ともいき会		
部会名		権利擁護部会		
業務目的		○福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に掌握検証し、適正な業務運営を進めます。 ○権利擁護部会では、障害者の虐待防止の啓発及び研修を進め、障害者の人権の尊重や権利擁護の具現化をすること、並びに利用者に安心と安全を提供するサービスの質の向上を目指した活動を展開します。		
業務実施内容	○6・7月職員研修 昨年度同様に、コロナ感染症対策として3箇所に分かれて研修を実施。 「感情のコントロールとチーム支援」について、虐待に至る要因の一つとして支援者自身の感情が関係していることに着目し、日々の支援を振り返りながら支援者としての在り方について話し合いました。一人ひとりが支援の中で感情がゆさぶられた経験を話し、一人で悩まずにチームで支援をしていくことの大切さを確認する機会となりました。			
	○部会員による外部研修への参加(令和3年7月20日、12月3日) 権利擁護推進基礎セミナーへの参加及びオンライン研修による受講等部会員の自己研鑽に努めました。 ○12月権利擁護基礎研修 長野市障害者権利擁護サポートセンターベターデイズに委託をし、昨年までに実施してきた権利擁護研修の応用編として、制度・条約等の見直し、実際に起こった虐待事案からの検討、虐待につながるメカニズム等について学びました。 ○チェックリストの活用について 部会内にて再度チェックリストの目的、意義を検討し、12月の権利擁護研修時に実施しました。部会員にて実際に事前に行ってみて、勤続年数が長いほどチェックが付く項目が増え、誰にでも起こりうることであることを知ってもらうこと、そして、チェックリストは行動を戒めるものではなく、定期的に活用することで改めて支援に対する意識を高めていくことを目指し、定期的に実施をしていけるよう来年度以降も啓発活動の一環として実施していきたいです。 ○虐待防止・虐待時対応マニュアルの検討及び作成			
年間取組	月	取組み	月	取組み
	4月	職員研修に向けて資料作成①	10月	12月の研修に向けて打ち合わせ・役割分担
	5月	職員研修に向けて資料作成②	11月	12月の研修に向けてチェックリストの見直し・修正
	6月	職員研修実施	12月	権利擁護研修実施 権利擁護研修振り返り
	7月	職員研修実施 研修振り返り①	1月	本年度活動振り返り 次年度事業計画
	8月		2月	次年度職員研修に向けて 検討① 虐待防止マニュアルの検討・作成①
	9月	研修振り返り②＋反省会 来年度の課題について	3月	次年度職員研修に向けて 検討② 虐待防止マニュアルの検討・作成②

令和3年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		安全衛生部会			
業務目的		○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人内の業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。 ○各部署に適宜情報発信・助言が出来るように、部会員一人ひとりが防災、感染症等について知識を深めスキルアップを図ります。 ○利用者、または保護者が安心して利用できるように法人設備の管理を行います。			
業務 実 施 内 容	○防災訓練の実施 〈地震⇒火災〉…本部は消防署の立ち合い有り。 ・7月2日(金)AM:本部 PM:放課後 ・8月4日(木)PM:就労 ・9月6日(月)PM:中御所 〈水害〉…各避難場所への避難 ・8月10日(火)AM:中御所 ・9月4日(土)AM:放課後 ・9月8日(水)PM:就労 ・9月14日(木)AM:児童 ・9月22日(水)AM:生活 〈不審者〉…本部は警察署の立ち合い有り。 ・11月17日(水)AM本部 ・12月1日(水)PM就労 ・12月13日(月)PM中御所 ＊コロナウィルス感染防止対策として3密を避けて避難訓練を実施しました。				
	○法人設備の管理(安全点検) ・5月・11月実施。				
	○啓発活動 ・感染症状況の把握、感染症・天候等の配信。 ・安全点検の際、救急セット・ノロウィルス対策セットの点検・補充も併せて実施。 ・インフルエンザ予防接種の推奨。 ・安全運転啓発として、70歳継続雇用研修(生活介護ドライバー)の推奨・実施。				
	○福利厚生 ・コロナウィルス感染防止対策のため、歓迎会・忘年会は見送りました。 ・職員に予防接種費用3,000円の補助を実施。				
	○職員のスキルアップ ・防災訓練について(研修・訓練) ・応急手当普及員研修参加。コロナウィルス感染防止のため1名は延期になったため、来年度検討します。 ・法人全体研修「防犯についての基礎知識」9月に実施しました。 長野南警察署生活安全課の署員さんを講師に招き基礎知識を学び、護身術・刺す股の使用方法も実践しました。				
	○研究活動 ・非常災害対応資料・災害時緊急連絡網の整備・作成 ・防犯マニュアルの作成 ・外部研修参加「災福ネットセミナー」				
	○今後の検討事項 ・部会員の研修(応急手当普及員講習)への参加、職員への周知。 ・マニュアル各種のスタッフへの周知。				
	年 間 取 組	月	取り組み	月	取り組み
4月		年間計画の確認	10月	避難訓練計画	
5月		法人設備安全チェック、報告書作成	11月	避難訓練実施・振り返り 法人設備安全チェック、報告書作成	
6月		避難訓練計画	12月	感染症啓発(予防接種の推奨)	
7月		避難訓練実施、振り返り	1月	感染症啓発	
8月		法人全体研修「防犯についての基礎知識」検討・計画 避難訓練計画	2月	今年度の取り組みのまとめ	
	9月	避難訓練実施・振り返り 法人全体研修「事故対応について」実施	3月	次年度活動計画作成	

令和3年度		業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		リスクマネジメント部会			
業務目的		○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人業務状況を常に把握検証し、適切な業務運営を進めます。 ○リスクマネジメントを通して、法人コンプライアンスの遵守等、職員への啓発と共に、利用者に安心して利用していただくために、安全と的確なサービスの実施に努めることを目的とします。			
業務 実施 内容	○各部署におけるリスクマネジメントの実施と把握 ・ヒヤリハット:「記録用紙への記入」を浸透させていくことが課題として挙がっていましたが、口頭での報告後に記録用紙への記入する事が一連の流れとして身に付いてきています。 ・事故報告書、モニタリング:事故発生後に原因分析、対策を検討することで、様々な視点や気づきがあり、意識の向上に繋がりました。引き続き、意識の継続と対策の日常化をする為の取り組みについては検討、啓発を重ねていきます。				
	○定期部会における現状把握と情報共有 ・事故対策委員会を開催する事案はありませんでした。 ・事故報告・ヒヤリハットの内容確認を行い、俯瞰的な視点で対策・検討をし、部署へ周知しました。				
	○部会員によるリスクマネジメントの学習 ・リスクマネジメントに関する目的、役割、実施手順を再度年度初めに確認を行いました。 ・個人情報保護についての取り組みを中心に学習を行いました。				
	○リスクマネジメントにおける啓発活動 ・ミーティングや日常的な声掛けをすることで意識の向上に繋がりました。今後も意識して啓発していきます。				
	○個人情報保護に対する予防と対策 ・部会員が「個人情報とは」、「個人情報保護法」、「個人情報の取り扱い・ルール」について学びました。 ・10月・11月の職員研修では、日常の事柄を例として挙げることで、身近に潜む個人情報漏洩の危険性について意識が高まる研修となりました。法人全体や各部署にて個人情報について考え、セキュリティの強化や個人情報の管理方法を見直す機会となりました。				
年間 取組	月	取り組み	月	取り組み	
	4月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 今年度の活動について 個人情報保護について学習	10月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の内容検討 職員研修の実施	
	5月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 個人情報保護について学習	11月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 職員研修の実施 職員研修の振り返り	
	6月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 個人情報保護について学習	12月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 次年度に向けて方向性の検討	
	7月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 個人情報保護について学習	1月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 次年度、部会活動計画の検討	
	8月	事故・ヒヤリハットの把握・分析・モニタリング 職員研修の内容検討	2月		
	9月	事故・ヒヤリハットの把握・分析 職員研修の内容検討	3月		

事故報告分類・分析

1.事故報告月別件数

部署 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童			1		1			1	2	1			6
放課後		1						1					2
キャリアサポ													0
生活			2	1	1	1		2		1		1	9
相談													0
就労					※								0
就業・生活							1						1
件数	0	1	3	1	2	1	1	4	2	2	0	1	18

※8月就労については生活と共同提出(連絡忘れ)

2.分類別事故報告件数

分類 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
怪我									1				1
熱傷													0
誤嚥													0
異食													0
薬													0
対人			1					1					2
物損					1					1			2
紛失								2					2
車輛関係		1	1			1						1	4
情報管理				1	1			1					3
その他			1				1		1	1			4

その他内訳 ・商品にダニの混入、セキュリティキーの閉じ込み、連絡ノートの入れ間違い、利用者取り残し

3.内容、分析

R2事故報告件数	年間件数 17件	R2ヒヤリハット	年間件数355件
R3事故報告件数	年間件数 18件	R3ヒヤリハット	年間件数381件
部署別内訳			
発達児童	6 件	車輛物損、物損、置忘れ、転落怪我、連絡ノートの入れ間違い、利用者取り残し	
発達放課後	2 件	車輛物損、入力相違書類の発送	
キャリアサポ	0 件		
生活	9 件	対人怪我2、紛失2、車輛物損2、物損、商品にダニの混入、連絡忘れ	
相談	0 件		
就労	0 件		
就業・生活	1 件	セキュリティキーの閉じ込み	

○分析

- ・事故報告年間件数18件のうち、4件が車輛関係の事故報告でした。年間の報告としては毎年最多となっています。個々の運転時の安全意識を部会、部署においても常に啓発を続けていきます。
- ・サービス利用中における、事故発生時の行政への報告義務による報告はありませんでした。
- ・発生した事故に関しては事故報告書として作成し、発生状況、要因暫定対策等を確認しリスクマネジメント部会にて定期的な見直し、恒久対策までの確認を行いました。
- ・ヒヤリハットの年間件数は381件でした。件数に関してはほぼ同様の件数となりました。内容によってはモニタリングを行い、対策の実施と効果の確認を行いました。記入することへの意識向上と継続の為に、啓発を続けていきます。

令和3年度 業務報告		社会福祉法人ともいき会	
部会名		人材育成部会	
業務目的		○障害福祉サービスの質の向上に向けて、法人としての業務状況を常に把握検証し、適正な業務運営を進めます。 ○法人職員の研修事業を中心とし、質の向上のために要求されるスキルを身につけると共に利用者や法人に貢献できるようスタッフの育成を目指していきます。	
業務実施内容	【職員研修】 ○第1回 職員全体研修(権利擁護部会) 6月・8月 テーマ『感情のコントロールとチーム支援』 ○第2回 職員全体研修(安全衛生部会) 9月 テーマ『防犯についての基礎知識』 ○第3回 職員全体研修(リスクマネジメント部会) 11月 テーマ『個人情報基礎研修』 ○第4回 職員全体研修(人材育成部会) 中止 *コロナ感染防止策として、就業時間内で午前・午後の2グループに部署を分けたり、各部署毎で開催をし平均36名が出席することが出来、研修内容を共有し部署内で共通認識が図れました。 複数回実施に向け、研修を主催する各部会には伝達内容の統一を図るため部会の中でスキルアップを図ることを呼びかけ、研修を受ける職員に再度、研修の目的を確認しより良い研修になるよう努めました。		
	【新人職員OJT研修】 ○年間を通して、9名の職員実施 *今年度は新人のみならず、OJT研修未実施で希望のあった職員を対象に実施しました。 (課題) 日程調整や打合せ等のスケジュールが過密なため、余裕を持った取り組みを行います。		
	【派遣研修・法人内研修・新人研修・職員個別面談】 ○法人内研修:①6月2日16:00～17:30 講師 ハローワーク長野 学生就職支援室 関 氏 		

研修の状況

○外部研修

月	人数	内 容	人数	内 容
6月	1人	相談支援専門員初任者研修		
7月	1人	令和3年度就業支援基礎研修	2人	第1回長野市虐待防止・権利擁護研修会
9月	(オンライン) 3人	学齢期支援連携会議		
10月	2人	福岡塾2021 放ディバージョン	(オンライン) 1人	相談支援従事者専門分野研修 (地域移行、地域定着)
11月	(オンライン) 7人	労働法の教え方セミナー	(オンライン) 1人	視覚障害・就労新者講習会
	(オンライン) 1人	就業支援担当者研修(ナカボツ)	(オンライン) 1人	南関東ブロック会議経験交流会(ナカボツ)
	(オンライン) 2人	児童発達支援事業所連絡会議	(オンライン) 1人	第1回長野市相談支援専門員スキルアップ研修
	3人	話の聴き方・伝え方		
12月	6人	就業支援実践研修	(オンライン) 3人	サビ管・児発管更新研修
	(オンライン) 2人	相談支援従事者現任研修		
1月	(オンライン) 2人	災福ネットセミナー		
2月	(オンライン) 1人	主任職場定着支援担当者経験交流会(ナカボツ)	(オンライン) 1人	生活困窮者・生活支援推進セミナー
	(オンライン) 1人	ひきこもり支援について	(オンライン) 2人	発達に支援が必要なお子さんの 保護者への支援
	(オンライン) 1人	第2回長野市相談支援専門員スキルアップ研修		
3月	(オンライン) 2人	カスタマーハラスメントに負けない事業所		

(計 44名)

○内部研修

4月	3名	新人研修		
6月	全職員	全体研修『感情のコントロールとチーム支援』	全職員	職員面談 ①
	4名	新人スタッフ OJT研修	全職員	ハローワーク研修
9月	全職員	全体研修『防犯についての基礎知識』	管理者	ハローワーク研修(管理者向)
10月	全職員	職員面談 ②	5名	法人内OJT研修(2年目以降)
11月	全職員	全体研修『個人情報基礎研修』		

*コロナの影響で、集合型の研修は減少し、ほぼオンラインでの研修スタイルに変化している。
オンライン形式での研修にだいぶ慣れてきて移動時間の削減などメリットもあるが、グループディスカッション等は対面式に比べると参加し難さを感じるため、もう少し慣れが必要と思われます。

令和3年度 社会福祉法人ともいき会 ウィズ発達支援センター(児童発達支援) 年度末事業報告

1	事業目的	○就学前児童の支援を行います。個別の活動、集団生活における体験を通じ、将来の社会生活で大切なことを学び、実践できるような支援をおこなっていきます。そのために、一人ひとりの得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。また、たくさんの経験を積み、「はたらく」大人を目指して、人を大切に支援をしていく事を目的とします。	
2	事業内容	障害児通所支援	○児童発達支援
3	事業概要	児童発達 定員10人 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～15:00	
4	職員体制	児童発達支援管理責任者1名、管理者1名、保育士3名、指導員3名	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	一人一人の得意なこと、できる力、可能性を伸ばしていきます。	○本人・保護者の想いや願いをもとに、日々の様子を観察し個別支援計画を作成、考察をしながら支援を行いました。 ○記録用紙に個別目標を掲げ、目標を意識しながら支援を行いました。また、個々の姿を振り返り、モニタリングやケース検討を行い、日々の支援での気付きや保護者の方との情報共有のなかで、必要に応じて計画の見直し等を行いました。	6ヵ月ごと 随時
		○生活や朝の会の課題の様子から、本人の持っている力に着目した支援を行いました。 ○季節や成長に応じた活動を通し、様々な経験を重ねました。 ○遊びや活動のなかで新たな事柄に挑戦すること、お友だちと協力して遊びを楽しむこと等、体験する機会を設けました。	通年
1	将来「はたらく」を目標に、活動内容を充実させていきます。	○コロナ禍のため、外出学習や買い物学習、室内施設での活動に制限がありましたが、感染レベルを加味し対策したうえで、季節に合わせた行事、買い物学習に替わるお買い物ごっこ等の行事を計画し、開催しました。また、少人数での遊びや、簡単なルールのある遊びのなかで、集団生活に必要な順番・交代・ルールを学ぶ機会を作りました。	通年
		○朝の会の課題では、最後まで取組む力や「できた!」という達成感、「困った」「手伝って欲しい」の発信も大切にし、伝え方を練習しました。また、集中することができる環境を設定しました。	通年
		○外部との交流は控えましたが、プチ縁日やハロウィン、お店屋さんごっこ等、感染症対策を講じながら少人数グループでの行事を企画し、他部署との交流を図りました。 ・今年度も行事の際に弁当を発注し、「お友だちと同じメニューを食べる」という経験も併せて行いました。	通年

1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○コロナ禍のため、必要に応じて保護者との面談や参観を短時間で行い、情報交換が出来るよう努めました。	随時
		○コロナ感染状況に応じ、資料の活用や電話で情報共有をしたり、短時間で効率的に保育園・幼稚園訪問、支援会議を行い、日々の支援へと繋げました。	随時
		○自立支援協議会(こども部会)は感染防止対策としてオンラインでの参加となりましたが、関係機関等とは電話による情報交換や必要に応じて支援会議を行いました。	随時
		○学校からの申し出により、今年度も就学説明会を中止しましたが、年長児の希望する保護者に個別で対応しました。	6月
		○全保護者を対象に保護者会を開催し、保護者同士の交流の輪を広げました。今年度も篠ノ井交流センターをお借りし、放課後等デイサービスの説明会も併せて行いました。	12月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○担当児童の月毎の記録をもとにミーティングを行い、日々の気づきや課題の共有、支援方法の検討を行いました。また、モニタリングや個別支援計画の作成をスタッフ全員が行い、支援技術の向上に努めました。	月2回 随時
		○ヒヤリハット・事故報告書の作成を行い、状況確認と検討、月1回のチェックシートでの振り返りを行い、注意喚起し再発防止を図りました。	随時
		○外部研修(オンライン研修)の参加を予定していましたが、コロナ感染により不参加となりました。	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○児童発達支援事業のパンフレットを関係機関に配布・補充し、当センターを知ってもらい、必要と思われるご家庭への配布や設置をお願いしました。	随時
		○新規利用に繋がるよう、保健センター・療育コーディネーター等、関係機関と情報交換をしました。	随時
		○ホームページで自己評価表・保護者アンケートの掲載を行いました。また、全員参加の活動の様子を新着情報として掲載、支援状況に合わせて画像の更新も行いました。	随時
2	地域の方々に知っていただけるよう発信をしていきます。	○地域の方々、利用者・利用者家族が楽しむことが出来るイベント「ウィズ・フェスタ 2021」は開催できませんでしたが、コロナ感染状況により地域の商店への買い物学習を企画、実施しました。	随時

(発達別紙)

1. 利用状況

児童発達支援

		登録者数	未満児	年少児	年中児	年長児	新規利用者数	延利用者数	稼働率
R01	年度	22	5	4	6	6	9	1802	75.0%
R02	年度	22	2	7	7	6	7	1782	65.5%
R03	上半期	22	4	4	7	7	4	965	82.3%
	下半期	25	6	6	6	7	6	834	71.0%
	年度	25	6	6	6	7	10	1799	76.6%

○分 析

○3月末現在、25名の登録。
 ○利用者・スタッフのコロナウィルス感染により2月24日から3月4日までの7日間、センターを閉所し稼働率が若干下がりました。現在はコロナ対策を実施しながら受け入れを行い、活動に制限はあるものの、その中で出来る代替活動を実施し社会体験の場を設けています。
 ○保健師・療育コーディネーターからの紹介で、例年同様10月頃より新規利用者、見学・体験希望者が増加しました。閉所期間中はもちろん、警戒レベルに応じて外部との接触を最小限にし見学・体験希望を延期をしていたため、令和4年度4月利用開始の利用者は2名に留まっています。来年度も保健師・療育コーディネーター等との連携はもちろん、新規利用者獲得のための宣伝活動が必要となると思われます。
 ○コロナウィルス感染防止のため、保育園・幼稚園・保健センター・医療機関・行政等の訪問を最小限に留めています。今後、感染状況を見ながら宣伝用のパンフレットを置いてもらったり配布をお願いし、相談員と情報交換をしながら新規利用に繋げていきます。

2. 連 携

		支援会議	家庭訪問	関係先訪問	保育園・幼稚園 移行
R01	年度	62	8	35	5
R02	年度	15	4	5	4
R03	上半期	21	1	10	4(完全移行1)
	下半期	13	7	6	0
	年度	34	8	16	4(完全移行1)

連携先

○福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童養護施設)
 ○教育(各幼稚園・保育園、各特別支援学校、各学校、教育センター)
 ○医療(稲荷山医療福祉センター、竹重病院)
 ○行政(市町村健康福祉部、保健所、各保健センター、こども未来部、中央児童相談所・家庭裁判所)
 ○その他(保護者、親戚)

○分 析

○支援会議・家庭訪問・関係機関訪問はコロナウィルス感染防止対策を行いながら必要最小限で行いました。
 ○園と併用している方には園訪問・関係者会議を行うことで連携を図り、就園を希望されている保護者の方には体験交流事業の活用や園開放等の情報提供をし、就園のお手伝いをしました。また、コロナウィルス感染防止対策として医療機関でのOT・STの見学は行いませんでしたが、資料等での現状報告・情報交換を行いました。
 ○関係機関と連携を図りながら、保護者の方の願いである幼稚園・保育園への移行を目指し、令和3年度は4名の児童が保育園への移行し、うち1名は完全移行となりました。今後も児童の様子を観察しながら完全移行を目指していきます。

1	事業目的	将来の「はたらく」大人を目指して、社会体験や、自立した生活を送れるための機会を提供し、自分で選択、実現できる力を伸ばせるような活動を実施していきます。また、集団での生活や遊びの中で、人と人との関わりを大切にしながら、自分の思いを整理して伝えたり、相手を思いやることができる力を育めるような支援をしていきます。	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
		地域生活支援事業	○移動支援、タイムケア、自立サポート
3	事業概要	放課後等デイサービス 開設時間平日8:30～18:00 サービス提供時間15:00～18:00(放課後時間に合わせて) 定員10名 休日8:30～18:00 サービス提供時間9:00～15:00(休みに合わせて) 移動支援・タイムケア・自立サポート	
4	職員体制	放課後等デイサービス 管理者1名、児童発達支援管理責任者1名、保育士2名(うち常勤1名)、児童指導員5名 地域生活支援事業 指導員等15名(非常勤職員)	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	実績報告	実施月
1	利用者・家族の想いを聞かせていただき、一人ひとりのニーズに寄り添った支援をしていきます。	○個別の活動では宿題や個々のニーズに合わせた課題、集団の活動では集団で動くことや、ルールのある遊びを取り入れる事で、それぞれの目標に応じた支援を行いました。	通年
		○個別支援計画に総合的な援助の方針を盛り込み、作成を行いました。また、利用者・家族の想いを取り入れながら計画に基づいた支援を行いました。	通年
		○ご本人の様子や日々の記録を基に、定期的又は必要に応じてモニタリングを実施し、家族の方に確認をしていただきました。	6ヶ月毎
1	将来の「はたらく」大人を目指して、活動内容を充実していきます。	○感染症対策に留意しながら県の感染症警戒レベルを基に活動を行いました。また、新たな感染症対策を策定し実施しました。日々の整容としても活かされました。	通年
		○親近感を感じてもらえるように菜園をウィズふぁ～むと命名し、春夏に枝豆、ミニトマト、きゅうり、バジル、秋冬にカブ、ラディッシュを栽培し、収穫を行いました。土作りから体験を行ない、昨年よりも収穫量や喜びも増加しました。	随時
		○クラブサンプズの活動は、中止となる事もありましたが、感染状況や季節、参加人数等を考慮し、楽しめる活動を実施することができました。 ・ブルーベリーやりんご狩り、陶芸、クリスマスweek、パンケーキ作り等。	月1回程度
		○NPO法人あいわーくすにてねぎの収穫体験、法人内センター協力の下、洗車や、袋詰め、仕分け作業等の就労体験を行いました。	5・9・10月
		○プチ縁日や体育館活動、作業体験等、他部署の活動と一緒に参加し交流を行いました。	随時

1	保護者、関係機関との連携を強化します。	○保護者や学校、関係機関と送迎時や電話、個別面談にて、利用時の場面や家庭等での様子の情報交換・共有を行い、保護者や利用者の想いを確認しながら支援を行いました。	随時
		○関係者・支援会議に参加し、日々の様子や可能性、課題の情報共有、支援に対する方向性の統一を図りました。 ・他、電話、書面提出、オンライン形式での参加。	随時
		○自立支援協議会(長野市子ども部会)に参加し、情報共有を図りました(zoomでの実施)。	通年
		○児童発達、年長児の保護者を対象に、放課後等デイサービスの説明会を実施しました。	12月
2	職員の支援技術の向上を目指します。	○部署内ミーティングにて会議内容等の報告、個別支援計画の見直し、活動の計画や決定、振り返りを行い、意識や支援技術の共有を図りました。	月2回
		○各報告書の作成と回覧、確認を行い、必要に応じて改善策の検討・実施とモニタリングを行いました。	随時
		○法人内の部会・研修や外部研修への参加を行い、支援技術や意識の向上を図りました。	随時
2	新規利用者に来ていただけるような活動を展開します。	○相談支援専門員、関係機関等と連絡を取りながら、現在の空き情報の発信や希望者の見学を行いました。	随時
		○季節毎に活動報告を作成し、お便りとしての発行とホームページへ掲載を行いました。	年3回
		○保護者アンケートの実施と共に、事業者評価表を基に現状の確認と改善検討を行い、ホームページへ掲載を行いました。	6月～2月

(放課後別紙)

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	稼働率	大人登録者数
R01	年度	46	25	9	12	8	2644	87.3%	34
R02	年度	40	25	9	6	7	2475	87.3%	32
R03	上半期	38	24	9	5	4	1322	86.0%	29
	下半期	38	24	9	5	0	1267	82.7%	29
	年度	38	24	9	5	0	2589	84.3%	29

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日	26	26	26	17	23	26	26	26	26	24	21	22
延べ人数	232	222	247	167	217	237	247	227	237	208	158	190
大人利用者	136	134	143	89	112	132	127	136	138	109	85	102
稼働率	89%	85%	95%	62%	94%	91%	95%	87%	91%	87%	66%	70%

※定員10名

3. 利用学校別

		養護学校	地域小学校	地域中学校	中間教室	地域高等学校
R01	年度	3	4	1	1	0
R02	年度	2	6	1	1	0
R03	年度	2	5	0	1	0

○分 析

○新規利用者は、新1年生が4月より児童発達から3名、7月より小学生1名の計4名でした。平日は登録1日平均12名、土曜日は不定期登録者も含めると15名程度の1日平均8名が利用されています。

○登録利用者38名のうち、25名の約65%が稲荷山養護学校の生徒となっています。また、新規利用者4名のうち、2名が地域校の生徒で、地域校の生徒も11名、約29%と増加傾向となっています。

○7月に新型コロナウイルスの発症により7日(水)～18日(日)まで、また2月も同様に25日(金)～3月5日(土)まで閉所となりました。また、各月(特に4月、5月、1月～3月)にかけて学級閉鎖や自粛といった形でのキャンセルが多く見られました。7月の感染を機に、安心して利用していただく為にも新たな感染症対策を策定しました。また活動においては、感染拡大防止の観点からイベント活動をやむなく中止とした事もありましたが、県の警戒レベルに応じた活動先の選定や、屋外活動を中心に組み立てを行ないました。

4. 連 携

		支援会議	関係先訪問
R01	年度	51	18
R02	年度	34	7
R03	上半期	12	2
	下半期	16	1
	年度	28	3

連携先

・福祉(市委託相談員、療育コーディネーター、児童相談所、相談支援事業所、長野市ボランティアセンター、他サービス事業所)、教育機関(各特別支援学校、各地域の小中学校、中間教室)、医療機関(稲荷山医療福祉センター、竹重病院)、行政(市町村健康福祉部、こども未来部等)、その他(保護者、親戚)

○分 析

○利用については、児童発達での説明会、相談支援専門員や学校、保護者の方からの問い合わせにより、見学や体験を実施し実際の利用に繋がっています。今後も継続的に関係機関に情報交換を行い、事業所の特徴や、空き情報等の発信を行っていきます。

○支援・関係者会議は、コロナウイルス感染予防の為、必要最小限の開催が多く、また電話での聞き取りや書面のみ提出、またオンライン形式での開催もありました。対面での開催は感染傾向の動向により月毎にばらつきが見られます。各種会議については、本人の様子や検討事項、可能性、利用等についての確認、共有を行っています。また、学校で開催される会議は就学時間後の開催も多く、支援と重なってしまう為、書面のみで欠席となっている現状も課題となっています。

○各年齢で相談内容は様々ですが、関係機関で役割分担をしながら、安心して事業所利用、学校生活、家庭生活を送れることを目標に支援に取り組んでいます。

1	事業目的	「大人になったらはたらこう」の理念のもと、将来自信をもって社会人になることを目指します。そのために、学齢期の自信をもとに自己理解を深め、一人ひとりの自己実現に向けて主体的に自己決定ができるよう、キャリア発達支援をしていきます	
2	事業内容	障害児通所支援	○放課後等デイサービス
3	事業概要	定員10人 平日 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 14:00～18:00 土曜・長期休暇 開所時間 9:00～18:00 サービス提供時間 10:00～16:00	
4	職員体制	管理者1人、児童発達支援管理責任者1人、指導員2人	
5	事業報告		

優先順位	事業目標	年度末実績報告	実施月
1	(利用に当たり) 利用者一人ひとりの想いを傾聴し、目標を明確にした利用ができるよう、サービスを提供します。 安心・安全に利用できるよう配慮します。	○上半期同様に、ご利用開始前に保護者及び本人との面談を通して、センターでの目標を決め、個別支援計画の作成に努めました。	随時
		○保護者との連携として、可能な限り支援会議へは参加し、必要があればその都度、想いの傾聴に努めました。	随時
		○感染症の対策として、センター以外での活動に際して、活動先の情報を集めて、安全に活動ができるよう配慮しました。	随時
1	(生活スキルの向上) 利用者が自分らしく自信を持って生活していくために、出来ることを増やす支援をします。	○利用者が自分で考えることができる支援を大切に、達成感の感じられる講座を意識し、提供をしました。	随時
		○保護者や本人からの要望の中で、個別で講座を実施し、安心して利用できる工夫をしました。	随時
1	1 (「働く」意欲の向上) 将来、「働くことがイメージできる」支援を提供します。	○仕事について楽しく学ぶことができるよう、実際にお出かけした先でどのような仕事があるかなど、活動に工夫をしてきました。	随時
		○西友三本柳店での職場体験、体験前の働くことの準備講座、体験後の振り返り講座を実施しました。	8月
		○コロナ禍において新規企業への見学の実施はできませんでしたが、春休み期間に会社見学の企画を実施しました。	3月
2	2 新規利用者の確保及び、登録者1人当たりの利用日数を増やしていけるよう活動を展開します。	○定期的な利用日以外にも、色んな人との関わりができるように意図的に違う曜日や活動に誘って参加をしてもらいました。	随時
		○定期的に相談員や学校などに訪問やパンフレットの送付を行いました。	随時
		○通信制高校にも連絡を取り、周知活動とともに学校長と福祉との連携について意見交換等を行いました。	5月

2	職員の支援技術及び資質の向上に勤めます。	○法人内職員研修の他、Zoomや動画配信の視聴による研修参加をしました。また、定期的なミーティングに置いて事例検討等自己研鑽に努めました。	随時
		○他の事業所で支援会議を行った際に、日中の活動を見学させていただき、それぞれの事業所での役割について話し合うことができました。	随時
		○講座の内容について、各職員が作成に携わり、また、内容に関しても事例の内容に変化をつける等工夫した講座の提供を心がけました。	随時
2	保護者・関係機関との連携を強化します。	○利用者と向き合う際には、必ず保護者に連絡をし、利用者に伝える内容とご家庭でのフォローのお願いなど、連携を意識した支援をしました。	随時
		○引き続き長野市自立支援協議会こども部会執行部として参加をし、下半期にはZoomにて市内の保育園との連携会議を開催し、多くの園に参加をしてもらいました。	1月
		○12月～1月に実施・集計し、2月に法人のHPに掲載しました。活動内容・支援内容に関しては良い評価をいただいています。	12月～2月

1. 利用状況

		登録者数	小学生	中学生	高校生	新規利用者数	延べ人数	平均稼働率
R01	年度	38	5	14	17	13	1470	50.8%
R02	年度	36	7	16	13	12	1287	44.3%
R03	上半期	30	5	10	15	1	725	50.7%
	下半期	36	7	11	17	5	678	45.5%
年間計・平均						6	1403	48.1%

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
登録者数	30	30	30	31	30	30	32	32	33	33	33	34	
開所日	25	23	26	24	22	24	26	24	26	23	22	26	291
延人数 平日・休日	90 29	93 35	100 26	86 28	98 20	92 28	93 32	82 32	118 34	75 25	38 19	105 25	1070 333
稼働率	48%	56%	48%	48%	54%	50%	48%	48%	58%	43%	26%	50%	

○分 析

○年間の新規登録者数は6名でした。年間の見学・体験者数は16名でしたが、学校や保護者・医療からの勧めでの見学に繋がった方では、本人自身がサービスの必要性を感じることができず、利用まで繋がらないケースや、不登校ケースでは見学までに時間を要し、見学後も利用することは難しい状況となることが多く見受けられました。反面で、小学生の見学者が増え、送迎がありの場合においては利用に繋がりがやすい傾向がありました。今後も、送迎ありを前提とした見学希望は増えていくと思われます。

○曜日(活動内容)別利用者数について、レクリエーションの日の利用率が高い傾向にありました。反対に、高校生向けの講座の日は、小中学生は宿題の時間と余暇時間となるため、利用率が伸びにくい傾向があります。来年度に向けて、利用率の高いレクリエーションを、中高生向けの内容で実施し、利用率の向上を目指します。

○コロナ感染症対策に関して、長野県警戒レベル4以上においては活動の見直しをし、同時に利用前のご家庭での検温の協力のもと開所をしてきました。活動面において、施設外での活動では、活動先の混雑状況の事前確認、貸し切りの可否等を確認し、安心して利用ができるよう工夫をしてきました。1月下旬より、各学校にて分散登校が始まり、その間、基本的に利用を自粛されるご家庭が多く見受けられました。極端に人数が少ない日などは、人数が少ない旨も保護者に伝えつつ、ご利用を勧めてきました。いつもは公共交通機関を利用されている高校生に関しても、警戒レベルが高い期間に限り、送迎の実施も行いつつ、利用していただけるよう努めてきました。

○保護者アンケートより、活動場所の広さについてのご指摘をいただき、また、静かに過ごしたい利用者もいる中で、現在の事業所では難しい現状があるため、新しい拠点についても今後検討を進めていく必要があると感じました。

3. 連 携

		支援会議
R03	上半期	35
	下半期	29
	計	64

連携先

長野養護学校、長野養護学校朝陽教室、稲荷山養護学校、信大附属特別支援学校、若槻養護学校、篠ノ井西小学校、広徳中学校、相森中学校、長野西高等学校中条校、長野市北部障害者相談支援センター、長野市南部障害者相談支援センター、こどもプラス千曲堂、ブルースター、須高地域総合支援センター 等

○分 析

○長野市自立支援協議会こども部会執行部参加(月1～2回)。9月28日に学齢期支援連携会議(Zoom)にて参加しました。1月13日に児童発達支援連携会議に参加しました。市内の多くの保育園から現場の先生にもご参加をいただき、連携を深めました。

○支援会議の開催時間として主に学校の先生の参加ができる夕方での開催が主でしたが、可能な限り参加をし、学校との連携を図りました。上記の課題同様に、地域校においては、支援級に所属していても学校によって毎月会議が開催される方もいれば、1年間1回も学校を含めた会議がなかった方がいました。可能な限りこれまで連携のなかった学校にもアプローチをし、支援の統一が図れるようにしていきたいです。

○体験実習における地域の企業や余暇活動における社会資源の活用の充実を目指し、積極的に連絡を取りつつ、関係性の構築を行いました。

1	事業目的	利用者一人一人の「はたらく」「くらす」を実現していけるよう、日々の生活の中で自信を持つ事が出来るよう支援をしていきます。「はたらく」それぞれの出来る力に合わせ作業に取り組む時間を設けていきます。「くらす」創作活動・音楽活動・余暇活動・体力作り等、様々な活動を実施していきます。また社会とのつながり等も大切に活動を行います。		
2	事業内容	障害福祉サービス	生活介護事業	
3	事業概要	生活介護 定員20名 開設時間平日9:00～18:00 サービス提供時間9:00～16:00		
4	職員体制	管理者 1名、サービス管理責任者 1名、支援員 9名、准看護師 1名、運転手 2名		
5	事業報告			
優先順位	事業目標		実績報告	実施月
1	生活介護利用者・家族の想いを聞かせて頂き、支援をしていきます。	○利用者の1日の様子を日誌に記す事で家族と連絡を取りました。不安が続いている場合には、現状把握と不安の解消に努め、相談支援専門員と情報共有するようにしました。		通年
		○コロナウィルス感染症の警戒レベルに応じて面談も電話にて対応する事が下半期にかけて増えました。希望がある保護者とラインを交換した事で、連絡を取り合う機会が増えました。		10月～3月
1	活動内容の充実を図ります。	○「はたらくプログラム」は、「はたらく」を見つめ直す1年になりました。 ○法人外作業では、アパート清掃(6カ所)とフリーペーパーの広告の差し込み・ポスティング(295部)を行ない、作業に入る際の迷いやヒヤリハット、予測が出来る状況を踏まえ手順書を作成し情報共有を行ないました。 ○内職作業(お菓子詰め等)に関しても、手順書の見直し、保管方法の確認等を行ないました。新たに作業着を着て取り組む中で食品を扱う意識とリスク軽減の為にチェックリストを用いて事前準備を行なう中で作業後の集荷を任せってもらうようになりました。 ○就労支援センターと協力をし、内職作業や【あいわーくす】のシードペーパー、【LPガス】に伺っての作業も取り組みました。		随時
		○長野市農福連携事業に参加し、苗箱の洗浄、ジャガイモ掘りの作業を行ないました。		随時
		○法人内作業としては、消毒・洗車・草取り・雑巾の作成などの作業を取り組みました。作業も定着してきている為、支援を通して多くの利用者が量、質と共に少しずつ向上が見られています。		通年
		○「あそぶ・くらす」プログラムに関しては、生活レベルの維持・向上を目指し活動を行ないました。また、情緒面の安定が生活の安定に不可欠であることを踏まえ、利用者の想いを汲み取りながら活動をするよう心がけました。		通年

1	活動の充実を図ります。	○外出・外食:象山神社、森将軍塚古墳、ケンタッキー・フライド・チキン 等 場所を選びながら実施し外食はテイクアウトに切り替えて行いました。 ○DVD鑑賞:月1～2回 ○創作活動:月1～2回 季節の創作、プラパン作り、絵画 等 季節感を考えながら全員が楽しめる「描く」「貼る」「破る」などの要素を取り入れて実施をしました。 ○アート活動:毎月1回講師を迎え、墨遊びや絵具、クレヨンを使い絵画 ○ウォーキング ○音楽を聴きながらリラクゼーション:月1～2回 ○ウィズでの体操:月2回 ○茶話会:家庭生活の中で外出する機会が少なくなっていて楽しみが減ったと話が多く挙がったため、下半期に1・2ヵ月に1回取り入れました。	通年
		○土曜日開所は、「あそぶプログラム」として、DVD鑑賞、動物園、足湯、公園散策等を行い、利用者は毎月5～6名と固定で利用されていました。	毎月 (6月以外)
		○法人内の連携として、他部署で企画した活動への参加や就労支援センターと作業の連携を行いました。	随時
		○「健康管理」に関しては、毎日の検温・月1回の体重測定・保健日より、新型コロナウイルスの対策のお知らせ等を発行しました。 ○利用者の身体状況の変化が見られた際は、早めに保護者に連絡を行ない、早退の促しや経過観察をする事で体調の悪化を未然に防ぐようにしました。	随時
2	新規利用者に来て頂けるような活動を展開します。	○養護学校の進路指導主事に活動内容や空き状況を説明し、実習生や見学の受け入れを行ないました。 ○発達支援センター利用者に「はたらくプログラム」の体験をしてもらえるような場を作りました。 ○長野市福祉ネットがコロナ渦でほとんど開催されない状況ではありましたが、下半期に1度参加し、他事業所との情報交換をさせていただきました。	随時
2	職員の支援技術向上を目指します。	○ヒヤリハットや事故報告・気付きの中から、再発防止に努めるようにしました。 ○スタッフ間のミーティングでは、個別支援計画に対してのモニタリング会議や日々の支援の中での情報共有や支援の方向性を話し合う場を作りました。 ○てんかん発作の対応についてケースを振り返りながら、新人スタッフに向けて発作時・救急搬送時について確認を行いました。	随時

(生活別紙)

1. 利用状況

		期末利用者数	新規利用者数
R01	年度	22	
R02	年度	21	
R03	上半期	20	0
	下半期	20	0
	年度	20	0

支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
R01	年度	1	9	9	4	4.7
R02	年度	0	7	9	5	4.9
R03	上半期	0	6	8	6	5
	下半期	0	6	8	6	5
	年度	0	6	8	6	5

2. 月別利用者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
人数	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20	20	20	21
開所日	22	19	22	18	20	21	22	21	23	20	19	23	21
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延人数	337	295	350	268	305	321	329	317	342	298	267	312	312
稼働率	77%	78%	80%	74%	76%	76%	75%	75%	74%	75%	70%	68%	75%

○分 析

○20名の定員に対し20名の登録となっています。9月末に1名が入所施設に入りウィズでの利用が終了しています。また、2名が継続して欠席している現状があります。(内、1名は新型コロナウイルス感染症対策による利用自粛)

○新型コロナウイルス感染症関係では、ご家族で緊急事態宣言地域への往来があった際には利用自粛をお願いした事もあり、欠席が続いた方も数名いました。また、法人内で陽性者が判明したため、7月に3日間、2月～3月に2日間臨時閉所をする事になりました。その後、利用自粛をする方もいたため、稼働率が下がっています。

○1日あたりの平均利用者数は15.0人で区分5・6の割合は68%となり、重度障害者支援加算の対象の方が増えています。

○個別面談18件、電話面談6件、支援会議18件、区分調査2件を行いました。

○活動面については、引き続き、利用者の人数や相性に対し室内の手狭さがある事と新型コロナウイルス感染症を鑑みながら、活動を切り替えたり中止する事もありました。家庭においても外出の困難さがあり、楽しみが少なくなってしまう声も多く聞かれたため、外出活動は少人数で4グループに分かれての活動にしたり、楽しみが少しでも多く感じられるよう茶話会等の計画を立て実行しました。

1	事業目的	障がい者が、「働く」ことを通して、地域で暮らし社会に参加して行くことができるように、ひとりひとりの願いに応じた就労支援を行っていきます。就職支援・就職後のフォローアップまで、『自立したい』『はたらかたい』気持ちを、社会での役割を実感する中で、サポートしていきます。		
2	事業内容	障害福祉サービス	○就労移行支援 ○自立訓練(生活訓練) ○就労定着支援	
		助成金・補助金	○職場適応援助者(ジョブコーチ支援・訪問型)	
3	事業概要	定員:就労移行14名、自立訓練6名 開設時間:平日8:30-17:30 サービス提供時間9:00～16:00 施設外就労(老人福祉施設での清掃活動)を中心に、計画的に実施する座学を通して、一般企業内において『はたらく』をイメージできるよう年間を通して積極的に一般就労の機会を提供します。また、企業の方が障害福祉について理解を深められるよう伝えていくとともに、継続的な職場定着を支援致します。		
4	職員体制	○管理者1名 ○サービス管理責任者1名 ○就労支援員2名 ○生活支援員(就労移行)1名 (自立訓練)4名 ○職業支援員2名 ○定着支援員3名		
5	事業報告			
優先順位	事業目標	年度末実績報告		実施月
1	一般就労を目指します (目標就職者7名以上)	【就労移行、自立訓練】 ○個別支援計画の内容について、2週間に1回振り返りを行い、ご本人が主体的に計画を立てられるように一緒に考えました。振り返りを通して自分の強みや課題を知り、目標に向かって訓練に取り組むことが出来ました。始めは少ない出勤日数から始めていた方たちも、徐々に週5日来ることが出来るようになりました。		2/週
		【就労移行】 ○新型コロナウイルス感染拡大の影響はありながらも、年間計画に沿って実施しました。4月以降の新規の方には「働くイメージ作り」として、2年目の方は「モチベーションの向上」「就職に向けて」と利用者の目的に合わせて見学を行いました。リモートでの会社見学に参加するなど、新しい形式を取り入れながら就職活動を行うことが出来ました。		通年
		【就労移行】 ○就職者数7名。		
		【就労移行・自立訓練】 ○定期的な支援会議の実施 3か月毎のモニタリングに合わせて、ご本人・保護者・関係機関と情報共有を図りました。事業所や家庭での様子、就職に向けての課題等について確認が出来ました。		随時
1	【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を場所を提供します	【就労移行、自立訓練】 ○施設外就労として、老人ホームでの清掃やシーツ交換を行いました。今年度より、清掃範囲を追加で契約し、上半期の工賃アップに繋がりました。 ○新型コロナウイルスの影響により、下半期にかけて老人ホームでの活動日数が半分以下となりました。代替作業として、他部署と連携してポスティングや菓子類の袋詰めなどの作業を行ったり、学習会を企画するなどし、活動の幅を広げることができました。 ○新型コロナウイルスの感染防止対策を実施しました。 施設内・公用車等の消毒等を行い、衛生環境を整えました。手洗い・うがい・マスクの着用・3密回避等の感染予防の対策に努めました。		通年

1	【就労移行・自立訓練】 一人ひとりのニーズに合わせた働く場を場所を提供します	【就労移行、自立訓練】 ○例年行っているワックス作業は、コロナによる感染防止のため、中止となりました。 ○昨年に引き続き、ガス会社からヒーターの清掃やカレンダーの袋入れ作業を請け負いました。今後も企業と連携し、要望に応じて新しい業務に取り組んでいきます。 ○新規施設外就労先の候補として、金属加工会社にて体験を重ね、来年度より正式に契約を結び、活動予定です。	随時
		【自立訓練】 ○関係機関と連携しながら、少しずつ通所日数を増やし、活動に参加していくことが出来ました。利用者自身がどうなりたいかを考え、その希望をかなえるための目標を自分で決めて活動することができました。	通年
		【就労移行、自立訓練】 ○土曜日開所を中心に社内学習会を開きました。前年度の内容を見直し、リニューアルしたり、作業現場や生活面について考える機会として「こんなときどうする？」などの新しい企画で学習会を行いました。 ・新規利用者オリエンテーション「働くとは」他 ・防災について ・伝言ダイヤル体験 ・お金の使い方 ・在職者の話 ・求人票の見方 ・良いところ探し ・履歴書の書き方 ・面接の受け方 ・余暇の過ごし方 ・身近な危険 ・休憩の取り方 ・こんな時どうする？（生活編、作業編）	毎月
1	【就労定着】 就職後も安心して働けることができるよう、丁寧なフォローアップをします （目標定着率80%以上）	○就職後は、他機関と連携を図りながら、安心して働くことが出来るよう支援しました。ジョブコーチ支援終了後、ご本人の希望に応じて、定着支援サービスによるフォローアップを行いました。悩みや不安がある時も、相談をしながら、働けることが出来ています。 定着率（3年間継続雇用率）83%	通年
1	職員の就労支援技術の向上を目指します	○コロナの影響もあり、対面での研修は少なく、主にリモート研修に参加しました。研修で学んだ事をミーティングにて共有することが出来ました。	随時
		○毎日夕方の申し送りと毎週水曜日にスタッフミーティングを実施しました。日々の様子や課題、スタッフの関わり方などについて振り返りました。学習会をスタッフ全員が企画からパワーポイントの制作、実施まで行いました。分かりやすく伝えることや興味を持って参加しやすい進行について学ぶ機会となりました。	毎週
1	新規利用者の確保に向けた活動を展開します （目標年間平均稼働率80%以上）	○関係機関に向けて、活動の様子を載せた「ウィズ便り」やパンフレットの配布を継続して行いました。 ○週3日利用からスタートするなど、緩やかに自信を付けていく方が多く、年間稼働率は77%となりましたが、見学、体験の受け入れを積極的に行い、利用に繋げることができました。	通年

(就労別紙)

1. 利用状況

		就労移行			自立訓練			就労定着		
		実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	稼働率	実利用者数	新規数	離職者数
R01	年度	21	10	81%	2	0	22%	12	8	2
R02	年度	22	11	98%	5	4	14%	12	3	1
R03	上半期	17	6	88%	4	1	38%	13	4	0
	下半期	11	2	66%	7	3	52%	16	3	2
	年度	19	8	77%	7	4	45%	16	7	2

2. 月別利用状況

就労移行		定員14名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
開所日	21	20	22	21	20	21	21	22	22	20	19	23	21.0	
登録者	14	14	14	14	12	14	9	10	11	11	11	9	11.9	
稼働率	94%	94%	95%	94%	79%	72%	59%	65%	70%	73%	68%	57%	77%	
自立訓練		定員6名												
登録者	3	3	3	3	4	4	5	5	5	5	5	7	4.3	
稼働率	37%	33%	34%	33%	46%	44%	42%	59%	49%	40%	45%	74%	45%	
就労定着														
登録者	9	9	9	10	13	13	14	13	13	13	15	14	12.1	
利用者	4	7	5	5	7	9	8	10	6	6	6	10	6.9	

3. 利用経路 ※()内自立訓練

	市町村	就業・生活 支援センター	ハローワーク	医療機関	教育機関	相談機関	その他
上半期	0	6(2)	0	0	5	3(2)	3
下半期	0	1(1)	0	0(1)	0	1	0(1)
年度	0	7(3)	0	0(1)	5	4(2)	3(1)

※その他
「ご本人・家族」「就労
定着時の離職」

○分 析

就労移行
4月は14名(内新規3名)でスタートしましたが、見学者18名・体験9名の受け入れを行い、5名が利用に繋がりました。また、新型コロナウイルス感染拡大により、昨年度の就職が困難であった利用者2名のサービス延長手続きを行いました。今年度就職することが出来ました。就職者7名、就労アセスメントのみの利用者1名、B型事業所の利用希望のため退所された方が1名、入院された方1名で、10名が利用終了となりました。週3日半日から緩やかに自信を付けていく方や体調不良や家庭の事情でお休みしている方もあり、稼働率は77%となりましたが、相談をしながらご本人が決めた予定で出勤することが出来ていました。2月に事業所内で新型コロナウイルスの感染者が出たため、濃厚接触者に該当する方はいませんでした。感染拡大防止のため、1日閉所としました。
自立訓練
昨年度からの継続利用者3名でのスタートでしたが、病院のデイサービスから5名、ナカボツから2名、ご本人から1名の見学があり、4名利用に繋がりと、現在利用者は7名となっています。今までの実績や周知活動により「将来働くことに繋がる自立訓練」というイメージを持っていただけるようになり、少しずつ利用者を増やすことが出来ました。在宅期間が長かった方も少しずつ体力や自信が付き、週5日出勤できるようになっています。一方で、家庭状況や体調不良などにより休みが続く方もあり、稼働率は45%となっています。ご本人の希望や状況に合わせて活動内容を設定したり、出来ることを増やして自信を付けていけるようサービスの質の向上を目指していきます。
就労定着
今年度は16名の方が利用し、内新規利用者7名(JC支援終了後の利用)となっています。不安がありながらも会社や家族のサポートを得ながら、13名の方が就労を継続しています。職場の人間関係に悩んだり、不適切な言動や振る舞いが続き、離職を選択される方が2名いました。新型コロナウイルスの感染防止のため、訪問を控えてほしいという企業はありましたが、昨年度と比べ、感染対策を講じながら、訪問することが出来ました。必要に応じて面談等を行い、働き続けられるよう支援しました。

4. 実習状況

		見学	実習	ジョブコーチ
R03	上半期	12	7	10
	下半期	8	3	5
	年度	20	10	12

見学及び実習先(職種)

(見学)

- ・ホームセンタームサシ(品出し・清掃)
- ・原信(品出し)
- ・松代金属(組み立て)
- ・徳永電機(マスク製造)
- ・コヤマ(製造)
- ・日産(洗車)
- ・長野県立大学(消毒作業)
- ・マツモトキヨシ(品出し・清掃)
- ・ウェルシアオアシス(清掃)
- ・轟病院(清掃)

(見学・実習)

- ・マツモトキヨシ(品出し・清掃)
- ・長野赤十字病院(消毒作業)
- ・西友(品出し・清掃)
- ・ラウンドワン(消毒作業)
- ・本久(清掃)
- ・クスリのアオキ稲里店(品出し・清掃)
- ・長野市民病院(シュレッダー・消毒作業)
- ・スズキ(洗車)
- ・北信ヤクルト販売(環境整備)
- ・藤(エノキ栽培)

○分 析

就労移行

新型コロナウイルスの影響はありながらも、年間計画に沿って、見学20件、実習10件実施しました。新規利用者は、働くイメージづくりを目的にグループでの見学を行い、2年目の利用者については、ご本人が選んだ求人情報から見学・実習を行い、自主性を大切にして活動しました。訓練の中で、モチベーションを維持していくことが難しい利用者也、見学や体験を実施する中で、働く意欲に繋がったり、課題に気付いていくきっかけにもなりました。今後も個別の希望や目的に合わせて見学体験を実施していきます。

5. 就職状況

		就職者数 ()内A型事業所	平均利用 期間	平均実習 日数	定着支援 利用者数
R01	年度	6	1年5ヶ月	23	5
R02	年度	6(1)	2年1ヶ月	35	5
R03	上半期	3	1年8か月	17	2
	下半期	4	1年8か月	7	0
	年度	7	1年8か月	12	2

就職先

- ・マツモトキヨシ南長野運動公園店
- ・西友伊勢宮店
- ・長野赤十字病院
- ・長野市民病院
- ・ソレスト
- ・北信ヤクルト販売
- ・本久

○分 析

就労移行

就労定着

感情に波があり不安定だった方や就職への不安がある方も、訓練の中で少しずつ自信を付けて、7名の方が就職しました。過去の利用者が就職した企業から声がかかり、雇用につながったケースもあり、在職者の働きぶりが評価され、信頼関係を築くことが出来ていると感じました。利用期間を1年延長した2名の方も、見学⇒体験⇒実習を通して自分で主体的に活動し、希望した職場に就職することが出来ました。実習期間を取らずに短期(2週間)の雇用契約を結び、就職につながったケースがあったため、前年度より実習日数が少なくなっています。

就職後に定着支援サービスの利用につながった方は2名でした。利用料がかかるためJC支援でのサポートを希望したり、転居によりナカポツに引き継いだ方、クローズでの就職の方が定着支援サービスを利用しませんでした。就職後6か月に満たない2名の方は、次年度利用希望があります。

1	事業目的	○相手から話を聴き、必要に応じて基幹相談支援センターや関係機関と連携していくことで、本人の目的達成、課題解決にむけてサービス等利用計画、障害児支援利用計画を作成し、取り組むことを目的とします。また相談を通して見えてくる地域の課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいきます。		
2	事業内容	相談支援事業	○指定特定相談支援事業、障害児相談支援事業	
3	事業概要	開設時間平日9:00～18:00		
4	職員体制	管理者1人、相談支援専門員2人(専従2人)		
5	事業報告			
優先順位	事業目標		実績報告	実施月
1	基本相談支援を行います。		○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、必要最小限での、訪問、支援会議の実施を行いました。また気持ち的にも不安定になる方に対しては、電話対応等で話を聴くよう努めました。	随時
			○不登校、虐待、家庭環境等、相談内容の複雑化するケースが増えており、児童相談所を始めとして他機関と連携しながら支援にあたりました。	
1	質の高い事業者を目指します。		○サービス受給者証の更新月に基本相談→サービス利用計画、また定期的なモニタリングの実施を行ってきました。	随時
			○各種研修については、リモート研修の開催が主となっていますが、環境的にも整備されつつあるため、リモート研修についても積極的に参加しました。	
1	関係機関との連携を強化します。		○一事業所でできることには限りがありますが、ケースに応じて関係者が連携やチームでの対応により、できることやアイデアが広がったり、多様に支援を行うことが可能になりました。	随時
			○長野市障害ふくしネット相談支援事業所連絡会に参加し、連携を実現するために当事者や家族を支援するといった共通する目的を持ち、チームとして取り組むことができました。	

○利用状況

		障害児相談支援(子ども)			特定相談支援(大人)			相談支援専門員数
		登録者数	利用計画	モニタリング	登録者数	利用計画	モニタリング	
R01	年度	65	89	55	59	68	62	2(専従2)
R02	年度	70	90	104	59	70	99	2(専従2)
R03	年度	76	88	115	69	72	98	2(専従2)

分 析

登録者数については、サービス新規利用時に増加し、サービスの終了時に減少するといった状況にあります。法人内での特徴としては、児童発達支援、放課後等デイ、就労移行支援での新規利用者が主な増加要因となっており、就労移行支援については就職時に一旦サービスは切れますが、半年後の就労定着支援利用時に戻るといった状況にあります。法人外については、長野圏域の障害者総合支援センターや、事業所からの問い合わせといった所で、登録につながっています。ここ数年登録者自体の入れ替わりはありますが、数の大幅な増減はありません。

相談内容は多岐に渡り、要保護児童や家族まで巻き込んでいくような複雑化したケースも増えてきています。そのため相談支援事業所だけでなく、関係機関との連携しながら支援に取り組みました。

新型コロナウイルス感染対策については、リモート等についても検討し、実際に研修や支援会議といった場面では活用されました。基本相談の場面では、感染対策を徹底し、対面での面談を実施しました。

10月に地域移行・地域定着に関する研修を受講することで、精神障害者支援体制加算を取得できるようになりました。

令和3年度 社会福祉法人ともいき会 長野圏域障害者就業・生活支援センター 年度末事業報告

1	事業目的	地域での生活や日中の活動ができるように、ひとりひとりの願いに応じて生活面や就職活動から職場実習、就職後のフォローアップまで就労の場の確保と安定した職業生活が実現できるよう支援します。また、関係機関や諸団体等の連携を図りながら各種社会資源を最大限に活用し、地域に根ざした就業・生活支援に関する総合的な役割を果たすとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし・働き続けられるよう一役を担っていきます。
2	事業内容	雇用安定事業・生活支援事業 長野県短期トレーニング事業
3	事業概要	開所時間:9:00～17:30、月～金
4	職員体制	所長兼主任就業支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー 3名 主任職場定着支援ワーカー 1名 就業支援ワーカー(定着支援担当) 1名 生活支援ワーカー 1名 計7名
5	事業報告	

優先順位	事業目標(目標値)	実績報告	実施月
1	就職や生活面での不安や悩みを聞き、一緒に考えます。	○新規相談は143件でした。仕事・障害受容・生活・将来等様々な不安を抱える相談者の話を聴き、気持ちを受け止め、共に考える姿勢を大切に關わりました。 ○オンラインでの面談や支援会議は92件でした。感染状況やセンター来所の困難さに関わらず支援ができるなどのメリットもありましたが、まだ誰しもが使える環境でないという課題もありました。 ○就労準備性が整っておらずまずは生活面での支援が必要な方や生活面に課題のある在職者に対して、必要に応じて他機関と連携をしながら、安定した職業生活を遅れるようじつくりと向き合って支援を行いました。	通年
1	職場開拓を実施します。 職場実習をします。	○実習前のアセスメントツールとして見学・実習の目標シートを活用しました。目標を明確にしたことで本人の意識付けにつながり実習中断がなく、最後まで遂行できました。振り返りシートを活用して実習を振り返るケースもあり、次につながる支援を行いました。 ○未達成企業7社、ゼロ企業3社のうち7社で実習を行いました。仕事の切り出し、雇用管理等の助言をしつつ、ハローワークとも連携して訪問や電話等での丁寧な支援をすることで実習を行った全ての企業で雇用が決まりました。 ○地域の就労支援部会で実習制度の周知を行ない、就労継続B型事業所からの依頼もありました。来年度に向けて引き続き実習制度の周知を行い、就労移行事業所のみならず就労継続B型事業所からの利用増も目指し、スムーズな活用ができるようにしていきます。 ○コロナ感染者の増減により、前期は実習ができない時期、その反動で急激に実習が増加する時期がありました。後期は例年増加傾向ですか、コロナの影響がさほどなかったこと、また就労移行支援の期限を向かえる利用者も多く、例年以上に件数が多くなりました。	通年

1	職場定着支援の充実を図ります。	○コロナ禍で定着訪問ができない企業もありましたが、利用者や企業と電話等で連絡を取りながら状況把握に努めました。	通年
		○悩みや不安を抱える利用者に対し、コロナ禍で面談ができない時期にはオンライン面談を取り入れながら、寄り添いながら支援をしました。	
		○未達成企業等の担当者に向けて、新規採用の際の支援や定着支援について企業懇談を2回行いました。1回目は2社、2回目は4社(ZOOM)の参加があり、少人数にすることで活発な意見交換ができました。	
		【主任職場定着支援】 ○企業からの相談では、本人の出勤率や業務態度に課題があり、今後の雇用に不安を抱えるものが多くありました。繰り返し調整を行い、時間や業務内容の見直しを図ることで職場定着に繋げることができました。	
		○離職になる場合は、本人も企業も前を向いて進めるよう丁寧に支援を行いました。	
1	圏域内のネットワークの構築を目指します。	○コロナ禍の中でも自立支援協議会は通常会議、リモート会議で開催されました。各圏域内の課題について検討を重ねました。また障がい者雇用フォーラムの運営にも携わり、関係機関と協力して障害者雇用啓発に努めました。 ○新たな取り組みとして、HW連絡協議会/特支進路指導連絡協議会の開催をしました。改めてセンターの説明をすることで共通認識を持つてもらえました。又、顔の見える関係でスムーズな連携ができるようになりました。	随時
1	就職希望者や在職者への講座や交流会を行います。	○在職者交流会 リモート参加が可能な方を対象にZOOMでの開催を2回行いました。自宅でリラックスしていることもあり、集合型とは違う雰囲気では話を楽しみ悩みを出し合うことができました。初めての試みでしたが、参加者の満足度の高いものになりました。 ○ピアサポート事業 登録者、就労支援センターの利用者を対象に3回実施しました。1回は企業間交流会と併せて行い、在職者の働く姿を見学(映像)したり、話を聞くことで求職者に良い刺激となりました。	随時
2	職員の就労・生活支援技術の向上を目指します。	○毎日17:30～、毎週木曜日午前中にミーティングを行い、担当しているケースの進捗状況や課題について報告し情報共有をしました。互いに意見を出し合い、ご本人にとってより良い支援を模索しています。日々の意見交換を通じて、職員1人ひとりの支援力の向上を図りました。 ○他機関主催の研修に参加して、支援における知識向上に努めました。	随時

(長野圏域障害者就業・生活支援センター 別紙)

1. 利用状況

障害種別・就業別

		期末利用者数	新規利用者数
R01	年度	634	151
R02	年度	642	146
R03	上半期	686	45
	下半期	747	61
	年度	747	106

	身体		知的		精神	その他	合計
		重度		重度			
在職中	42	21	283	96	180	7	512
求職中	13	4	53	15	111	5	182
その他	2	1	35	5	16	0	53
合計	57	26	371	116	307	12	747

1) 出身地域別

	上半期	下半期	合計
長野市	529	47	576
同一圏域内	151	12	163
その他	6	2	8

※同一圏域内

須坂市、千曲市、信濃町、飯綱町、小布施町、高山村、小川村、坂城町

2) 新規登録者利用経路

	上半期	下半期	年度計
ハローワーク	10	16	26
職業センター	0	0	0
特別支援学校	0	23	23
就労移行	11	5	16
福祉施設	4	6	10
行政	2	1	3
直接利用	5	1	6
その他	13	9	22
合計	45	61	106

3) 相談・支援(システム上)

		件数
R01	年度	5,617
R02	年度	6,124
R03	上半期	3,459
	下半期	4,068
	年度	7,527

4) オンライン支援件数

		件数
R03	上半期	16
	下半期	76
	年度	92

5) 月別利用人数(実人数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
214	197	224	218	219	197	240	211	213	221	199	248	2601

○分 析

・新規相談について

R3年度の新規相談は143件でした(上半期:77件、下半期:66件)。相談の内訳は求職中:73件、在職中:46件、実習15件、学生9件でした。そのうち新規登録に繋がったケースは106件でした。年代別では10代~20代前半または50代以上の方の相談が例年より多くありました。若い年代やブランクがあり就労準備性が整っていない方の相談では関係機関とも連携をしながら、福祉サービスの利用も含めてご本人が気づきを持てるように支援を行いました。在職者からは転職をするか働き続けるか迷っている相談が多くありました。また企業から従業員の支援についての問い合わせが8件ありました。

・登録者について

R3年度末時点でのセンター登録者は747名でした。新規の相談者に対しては面談を重ねながら本人・家族の意向を聞き取り、必要と感じていただいた時点で登録をしました。相談内容に応じて委託相談員やその他関係機関を紹介するケースもありました。

・生活面について

福祉サービス利用に繋がった相談は18件(就労移行8件、B型6件、自立訓練4件)です。生活支援ワーカーによる相談(延べ872件)については、「就労(26.56%)」、「不安解消・情緒安定(21.18%)」、「家族関係・人間関係(14.93%)」の相談が多い状況にありました。求職者の就労相談、在職者の情緒面や人間関係の相談についてご本人の希望を丁寧に聞き取りながら支援しました。

・相談支援件数について

3)について…延べの相談件数を記載しました。面談・訪問のみでなく、電話での対応が多くありました(昨年比: +1403件)。4)では、オンラインでの支援件数を記載しました。下半期は個別面談や支援会議などでZOOMを活用する機会が多くなりました。5)では月別相談者の実人数を記載しました。毎月200名前後の相談者がいました。

2. 実習状況

		実習	職業準備訓練	実習からの就職率
R01	年度	113	5	
R02	年度	115	4	72%
R03	上半期	58	0	42%
	下半期	73	1	69%
	年度	131	1	56%

(延べ件数)

(実人数)

3. 一般就労に向けたアセスメント件数

R03	上半期	6
	下半期	11
	年度	17

4. 個別支援計画作成件数

R03	上半期	13
	下半期	10
	年度	23

○分 析

・職場実習について（目標値：実習斡旋件数120件）

過去2年間の平均実習数は114件で、今年度は131件でした(昨年比：+16件)。短期トレーニング利用の実人数は66名で、うち37名が就職となりました(移行率56%)。体験的な実習として実施した方が4名(うち1名は、その後実習なしで就職)、R4年4月の就職者が6名(R4年度にカウント)いたことが就職率が上がらなかった要因と考えられます。職場実習開拓件数は32件でした。ハローワークと連携して開拓した企業は10社で、うち7社で職場実習を行い10名が就職しました(R4年4月採用含む)。

・一般就労に向けたアセスメント、個別支援計画の作成について

R3年度のアセスメント件数は17件で、個別支援計画の作成件数は23件でした。部署内研修で個別支援計画作成を取り上げ、対象者を決めて2名一組で作成しミーティングで確認し合いました。面談から実習、定着まで途切れない支援をするために必要に応じて作成をしています。

3. 就職状況

主任職場定着支援ワーカーの相談状況(支援件数)

		就職者数	定着職場訪問
R01	年度	74	919
R02	年度	86	942
R03	上半期	43	440
	下半期	28	471
	年度	71	911

	身体	知的	精神	その他	合計
業務内容	11	35	41	0	87
対人関係	0	11	27	0	38
生活面	3	22	38	0	63
その他	0	12	2	0	14
合計	14	80	108	0	202

○分 析

・就職について（目標値：就職件数75件、就職率74%）

過去2年間の平均就職件数80件に対して、今年度は76件でした(一般71名、A型5名)。所属機関がなく、当センターのみで相談をしている就職者は新卒を含め59名でした(一般54名、A型5名)。コロナ禍で長引く不況の中、6・7月は就職者が0名でした。求人の動きが少ない中で選択をするため細かい所でマッチングが難しく、職場実習をしても就職に繋がらないケースがありました。また就労移行等関係機関の利用者がセンターの実習制度を利用して就職する件数が例年より少なかったことも就職件数減少の要因と考えられます。新規求職者数91名に対し就職率は78%でした。

・定着支援について（目標値：1年経過後の定着率90%）

過去2年間の平均職場定着訪問件数は930件で、今年度は911件(昨年度比：-31件)でした。コロナ禍で業種によって訪問が難しい企業も多くありましたが、訪問できない企業や本人に対してはリモート面談も取り入れ、定着支援を行いました。R2年4月～R3年3月に就職をした方の1年経過時の定着率は96.2%でした。また厚労省は精神障害者の定着支援訪問目標率を全体の30%としていますが、今年度は34%(139件)でした。精神障害の在職者からは電話やメール面談が多く、職場訪問だけでなく話をじっくり聞くことで本人が安定し、定着に繋げることができました。

・主任職場定着支援担当について

職場定着が困難な事例の相談件数は202件でした。「職場内で自分の障害について理解・配慮してもらえない」という相談が多くありました。本人と企業担当者との間に入り、双方の言い分を丁寧に伝えることで、配置換えの検討も含めて職場定着に繋がりました。やむを得ず退職をするケースについては、双方にとっていい終わり方ができるように配慮をしながら退職の手続きを進めました。企業からの相談については、69社の企業から75件の相談がありました。本人の出勤率や業務態度に課題があり、今後の雇用に不安を抱える相談が多くありました。繰り返し調整を行い、時間や業務内容の見直しを図ることで職場定着に繋げることができました。